

限局性および局所進行性前立腺癌患者に対するホル
モン療法の有効性について：
多施設共同後ろ向き研究の結果より

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/19179

学位授与番号	甲第 1824 号
学位授与年月日	平成 18 年 12 月 31 日
氏 名	上野 悟
学位論文題目	Efficacy of primary hormonal therapy for patients with localized and locally advanced prostate cancer: A retrospective multicenter study (限局性および局所進行性前立腺癌患者に対するホルモン療法の有効性について：多施設共同後ろ向き研究の結果より)
論文審査委員	主 査 教 授 井上 正樹 副 査 教 授 橋本 琢磨 太田 哲生

内容の要旨及び審査の結果の要旨

前立腺癌治療においてホルモン療法は、現在進行性前立腺癌の初回治療となっているが、早期限局性癌に対するホルモン療法の有効性についての報告は少ない。今回、ホルモン療法で長期にコントロールあるいは根治が期待できる症例を予測するために、早期前立腺癌に対するホルモン療法の有効性を後ろ向きに評価、検討した。

臨床病期 T1c から T3 でホルモン療法が施行された 628 例を対象とした。平均年齢は 74.5 歳、治療前 PSA 値の平均値は 14.0ng/ml であった。内科的あるいは外科的去勢と抗アンドロゲン剤の併用療法 (CAB 療法) が 399 例 (63.5%)、去勢単独療法が 299 例 (36.5%) に施行されていた。

- 1) 全症例での疾患特異および全生存率は 8 年で 89.1%、75.0% であり、CAB 療法群の疾患特異生存率は 8 年で 95.3% であった。CAB 療法で非ステロイド性抗アンドロゲン剤使用群の疾患特異 5 年生存率および 5 年非再燃率は 95.4%、85.6% であり、いずれもステロイド性抗アンドロゲン剤使用群より有意に良好であった。
- 2) 低リスク群 (治療前 PSA 値 10ng/ml 以下、Gleason スコア 6 以下のいずれもを満たす)、中リスク群 (治療前 PSA 値 10-20ng/ml、Gleason スコア 7 のいずれかを満たす) に関して nadir PSA 値 (0.2ng/ml 未満) までの到達期間で分類し、治療開始後 6 ヶ月以内に PSA 値が 0.2ng/ml 以下に到達した 192 例をグループ G、また、治療開始後 6 ヶ月以内に PSA 値が 0.2ng/ml 以下とならなかった 139 症例をグループ P と定義した場合、グループ G の疾患特異生存率は 8 年で 98.9% であり、そのうち CAB 療法が施行された症例では観察期間で癌死症例は存在しなかった。グループ G の非再燃率は 8 年で 82.0% であり、グループ P では 6 年を過ぎると非再燃率は徐々に低下し、再燃しやすい傾向であった。

以上の結果から前立腺癌患者において、ホルモン療法、特に CAB 療法に良好な反応を示す症例では、長期に渡って良好な経過が得られることが示された。このことから、症例を選択し、十分な期間治療することにより、ホルモン単独療法が根治治療になりうる可能性が示唆された。

本研究は今後の限局性前立腺癌に対する選択枝としてのホルモン療法の位置付けをより明確にする研究であり、学位に値する価値ある研究と評価された。